

令和7年度 事業計画書

自 令和 7年 4月 1日
至 令和 8年 3月 31日

特定非営利活動法人 地球学校

I. 総括方針

令和7年度、地球学校はNPOとして25年目です。記念すべき25周年に予定している新しい動きとして、横浜マラソン2025のチャリティー枠の寄付先団体に選ばれたこと、寄附者が応援したいNPOを選べる神奈川県「ふるさと納税を活用したNPO指定寄附」への参加などがあります。役員体制としては、組織ガバナンスの強化を目的に、監事を1名から2名体制にします。これにより、財務・業務両面のチェック体制をより強化し、当法人の健全な運営を図ります。

日本語教室では、定着している日本語オンラインレッスンを継続的に進める一方で、対面とオンラインを組み合わせたレッスンや企業のニーズに応じたプライベートやチームティーチングにおけるレッスンなども実施します。また一時帰省の学習者や期間限定の短期集中レッスンも同様です。毎週土曜日午後に対面で定期開催しているKANJIカフェも地域への広報とともにスタッフを増員し運営していきます。内部の日本語講師向け勉強会は、学びとともに交流の機会となるよう月1回の開催を計画し、今年度は対面での勉強会も検討します。また、この場は昨年同様日本語教室と地球っ子教室の垣根を超えた学びの場としても生かしていきます。オンラインで学ぶ学習者と講師がつながる機会を増やし、さらに学習者同士が日本語で交流できる場として年2回のイベント開催も計画していきます。

地球っ子教室では、今年度も年間を通して対面教室とオンライン教室を同時開催します。保護者向けに月1回発行する「もぐらん通信」は、内容をリニューアルし、教室や子どもたちの様子のほか、地域の情報や日本の学校生活、日本語についてのコラムなど、保護者に役立つ情報も掲載します。昨年度に公開した「もぐらんワーク」は作成を継続してサイト内のコンテンツを追加していくほか、新たな支援者も参加できるよう研修や情報交換の場をつくり、作成者のすそ野を広げるよう努めます。また、教材の広報を継続し、他団体での使用やそのフィードバックを通じてよりよい教材の作成を目指すとともに、他団体との連携を図ります。支援者情報交換会も実施し、支援者の情報交換と交流の場とします。教室の卒業生とのつながりを保ち、将来ボランティアや寄付に参加しやすい仕組みを作ります。

多文化交流では、12月は毎年恒例の寄付月間の賛同企画を日本大通実行委員会のメンバーとして開催します。市民活動フェアなど対外的なイベントについては、開催場所や内容ほか主催者の決定に従い参加します。各教室の内部イベント、会員同士の交流会も例年通り開催します。

本法人は、NPOとして設立25周年という節目の年を迎えました。これまで支えてくださった多くの皆さまに心より感謝いたします。時代に応じた組織基盤の整備と充実に努めながら、各事業において多種多様な学習者一人ひとりが安心して学び、成長していける環境づくりを進めていきます。また、地域の皆さまや関係団体との連携をいっそう深め、持続可能な運営を通じて、次の10年、20年へとつながる活動を築いていきたいと考えています。

Ⅱ. 事業内容

1. 日本語教室に関する事業

- ・ 内容 日本語上達を希望する学習者への日本語指導、日本語学習支援
- ・ 日時 通年 約 1770 時間
- ・ 場所 かながわ県民センター、地球市民かながわプラザ、オンライン
- ・ 従事者人員 日本語教師資格を有する正会員 約 35 名
- ・ 受益対象者 日本語学習を希望する母語が日本語ではない学習者 約 70 名
- ・ 支出見込み額 2,439,000 円

2. 地球っ子教室に関する事業（外国人児童・生徒への支援）

- ・ 内容 外国につながる子どもたちの学びを支える教室の開催
- ・ 日時 通年の土曜教室（35 回）・夏休み教室（5 日間）・春休み教室（2 日間）
漢字王決定戦（2 回）、支援者情報交換会、もぐらんワーク作成研修・利用促進・教材拡充
- ・ 場所 かながわ県民センター、オンライン
- ・ 従事者人員 会員・支援者（一般・大学生・高校生） 約 50 名
- ・ 受益対象者 外国人児童・生徒 約 60 名
- ・ 支出見込み額 1,073,000 円

3. 多文化交流に関する事業

- ・ 内容 寄付月間イベント、市民活動フェア、会員交流会ほか
- ・ 日時 通年 約 15 回
- ・ 場所 かながわ県民センター、オンライン
- ・ 従事者人員 担当スタッフ 7 名
- ・ 受益対象者 会員、各教室の学習者・子ども達、日本在住外国人、日本人 延べ約 250 名
- ・ 支出見込み額 37,000 円